

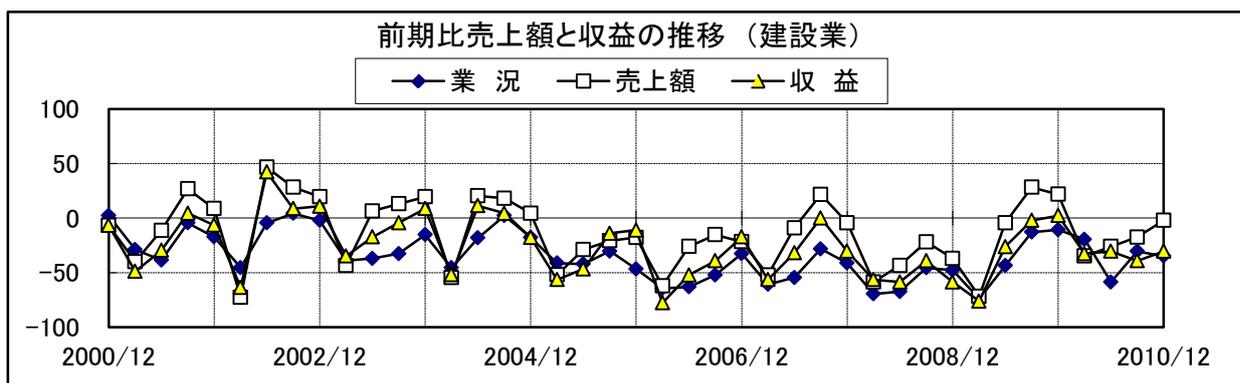
建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-58.7	-30.4	-34.8	-67.4
売上額	-26.1	-17.5	-2.2	-69.7
収益	-30.4	-39.2	-30.5	-73.9

今期の業況判断DIは $\Delta 34.8$ と、前期比マイナス幅が4.4ポイント拡大し悪化している。地区別にみると、三石、様似地区が改善し、静内区がほぼ横ばい、浦河、えりも、広尾地区で悪化している。

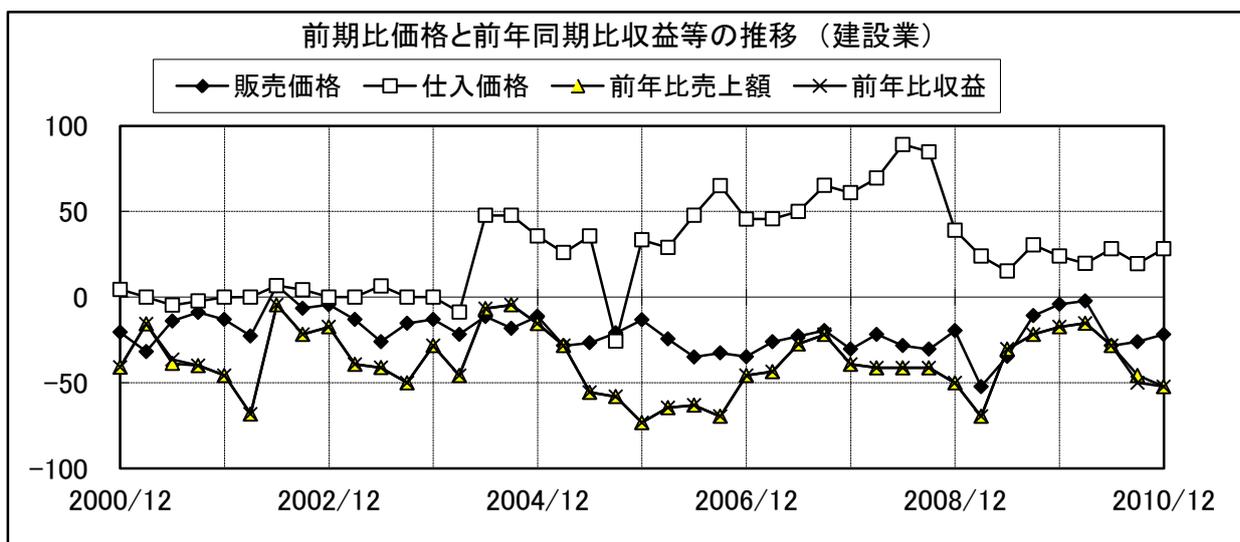
売上額、収益判断DIは、売上額が $\Delta 2.2$ 、収益が $\Delta 30.5$ と、前期比それぞれマイナス幅が縮小し15.3、8.7ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
請負価格	-28.3	-26.0	-21.7	-50.0
仕入価格	28.3	19.5	28.3	8.7

請負価格判断DIは $\Delta 21.7$ と、前期比マイナス幅が縮小し4.3ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、仕入価格判断DIは28.3と、前期比プラス幅が拡大し8.8ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-39.1	-10.8	-10.8	-32.6
人手状況	21.7	4.4	-10.9	8.7

残業時間判断DIは $\Delta 10.8$ と、残業時間が減少したとする企業割合は前期比横ばいとなった。

人手過不足判断DIは $\Delta 10.9$ と、前期比プラスからマイナス値となり15.3ポイント低下、人手「過剰」超から人手「不足」超となっている。

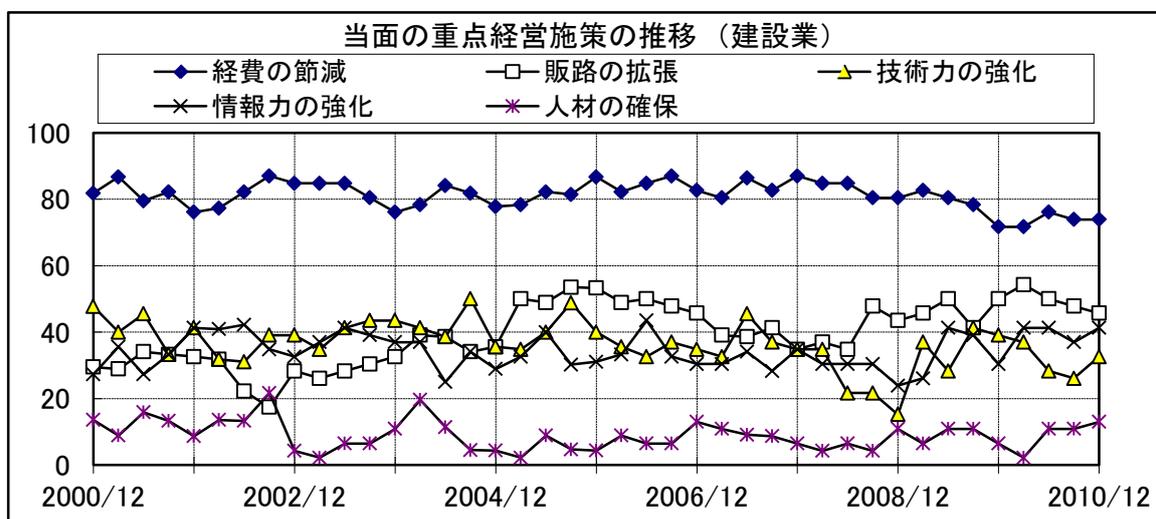
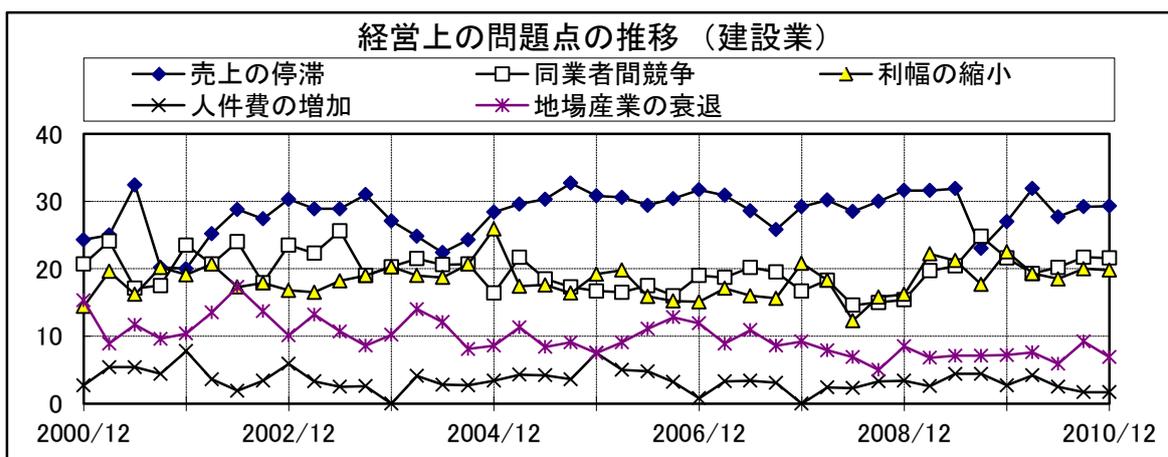
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは△4.3と、前期(△0.1)からマイナス幅が4.2ポイント拡大、不足感が強まる一方、適正と回答した企業は78.3%と、前期(78.3%)と同率であった。設備投資実施企業割合は23.9%と、前期(23.9%)と同率であった。件数でも前期の11社に対し同数の11社の実施となった。また、来期予定では当期比5社減の6社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ29.3%、次いで「同業者間との競争」21.6%、「利幅の縮小」19.8、「地場産業の衰退」6.9%の順に続く。他に「材料価格の上昇」3.4%、「下請けの確保難」3.4%なども挙げられている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ73.9%、次いで「販路を広げる」45.7%、「情報力の強化」41.3%、「技術力を高める」32.6%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年1~3月期)の予想業況判断D Iは△67.4と、今期(△34.8)実績比32.6ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、今期実績比売上額が△69.7(今期△2.2)、収益が△73.9(今期△30.5)と、それぞれマイナス値が拡大し67.5、43.4ポイントの低下見通しとなっている。

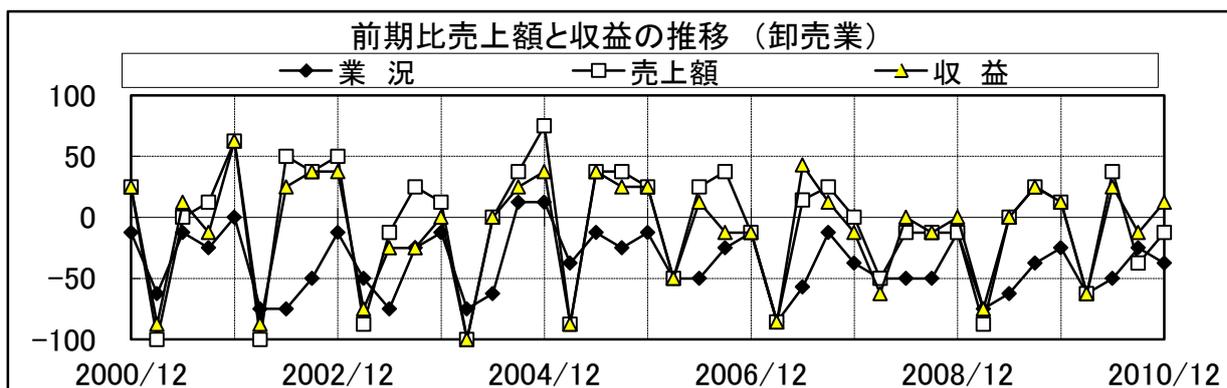
予想請負、予想仕入価格判断D Iは、今期実績比請負価格が△50.0(今期△21.7)と、マイナス値が拡大し28.3ポイント低下、価格低下基調が強まる一方、材料価格は8.7(今期28.3)と、プラス値が縮小し19.6ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
業況	-50.0	-25.0	-37.5	-87.5
売上額	37.5	-37.5	-12.5	-100.0
収益	25.0	-12.5	12.5	-75.0

今期の業況判断DIは△37.5と、前期比マイナス幅が12.5ポイント拡大し悪化となった。地区別にみると、三石、様似地区が改善し、浦河地区で悪化、静内地区で横ばいとなっている。売上額DIは、前期比マイナス幅が縮小し25.0ポイント上昇した。収益DIはマイナスからプラス値に転じ25.0ポイント上昇した。

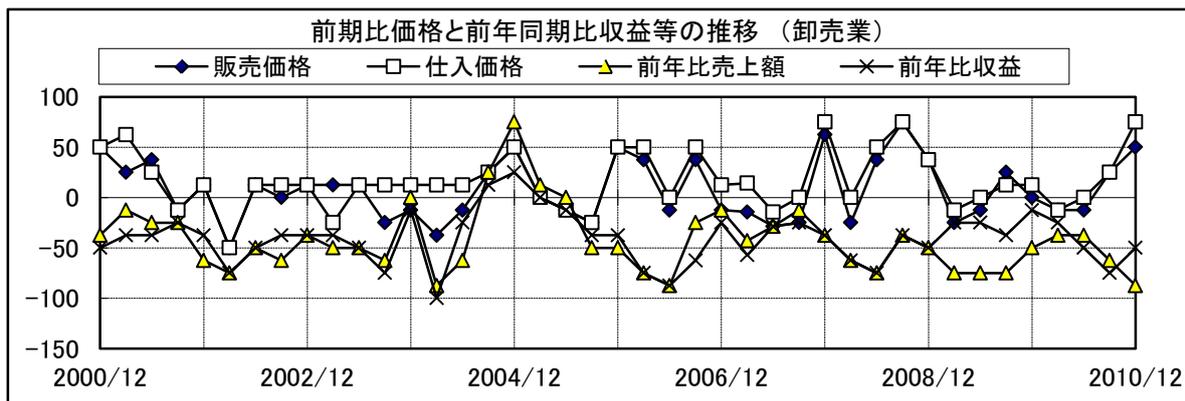


□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
販売価格	-12.5	25.0	50.0	-12.5
仕入価格	0.0	25.0	75.0	0.0

販売価格判断DI(50.0)は、前期比価格上昇基調を強め25.0ポイント上昇した。一方、仕入価格判断DI値(75.0)は、前期比プラス値が50.0ポイント拡大し価格上昇基調を強めている。業種別にみると、水産は販売価格・仕入価格が上昇、食品は販売価格で横ばい

仕入価格は上昇となっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
残業時間	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
人手状況	0.0	25.0	12.5	25.0

残業時間判断DIは0.0と前期比(△25.0)残業時間が減少したとする企業割合が減少した。

人手過不足判断DIは12.5と、前期(25.0)比12.5ポイント縮小、人手過剰感を弱めている。

□ 設備投資の動き

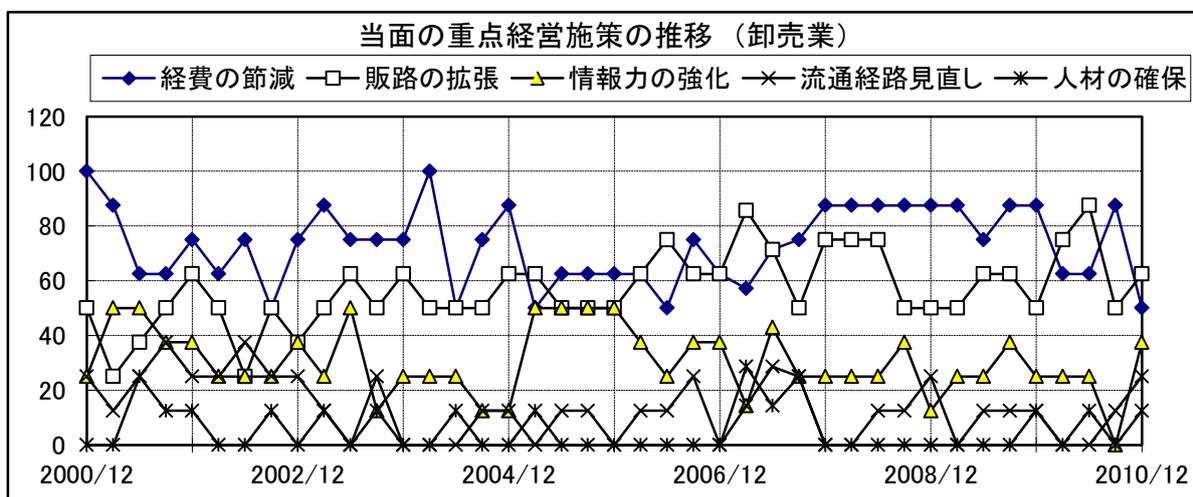
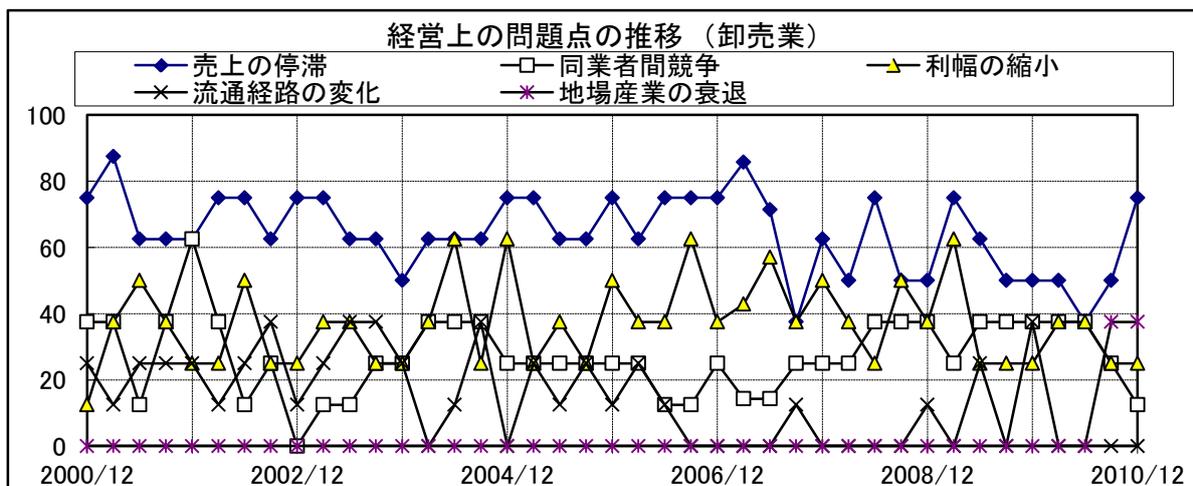
設備投資の充足感を示すD Iは0.0と、前期(0.0)と同率の横ばいである。適正と回答した企業割合(前期75.0%)が100%となった。

設備投資実施企業割合は0.0%と、前期(25.0%)比25%縮小、また来期の投資予定も0社であり、設備投資に関しては慎重な動きとなっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」75.0%をトップに上げ、「取引先の減少」50.0%、次いで「地場産業の衰退」37.5%、「利幅の縮小」25.0%、「販売商品の不足」25.0%の順に続く。その他には「天候の不順」12.5%、「同業者との競合」12.5%をあげている。

重点経営施策では、「販路を広げる」62.5%をトップに挙げ、次いで「経費の節減」50.0%、「情報力の強化」37.5%の順となっている。その他には「流通経路の見直し」25.0%、「不動産の有効活用」12.5%、「人材の確保」12.5%、「教育訓練を強化」12.5%をあげている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年1~3月期)の予想業況判断D Iは $\Delta 87.5$ と、今期($\Delta 37.5$)実績比50.0ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、今期実績比売上額が $\Delta 100.0$ (今期 $\Delta 12.5$)とマイナス値が87.5ポイント拡大し低下見通しとなっている。収益は $\Delta 75.0$ (今期12.5)で、プラスからマイナス値に転じ87.5ポイントの低下見通しとなっている。予想販売、予想仕入価格判断D Iは、今期実績比販売価格が $\Delta 12.5$ (今期50.0)と、プラスからマイナス値に転じ62.5ポイント低下。価格上昇基調から価格下落基調の見通しへと転じている。一方、仕入価格は0.0(今期75.0)と、プラス値からゼロ値に転じ上昇基調が止まった。